

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3144987号
(U3144987)

(45) 発行日 平成20年9月18日 (2008. 9. 18)

(24) 登録日 平成20年8月27日 (2008. 8. 27)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 F 1/14 (2006. 01)

B 6 5 F 1/00 (2006. 01)

B 6 5 F 1/14 A

B 6 5 F 1/00 U

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号	実願2008-4754 (U2008-4754)	(73) 実用新案権者	591011410
(22) 出願日	平成20年7月10日 (2008. 7. 10)		小川香料株式会社
			東京都中央区日本橋本町4丁目1番11号
		(72) 考案者	藤田 功一郎
			岡山県勝田郡勝央町太平台1-2 小川香料株式会社岡山工場内
		(72) 考案者	大下 めぐみ
			岡山県勝田郡勝央町太平台1-2 小川香料株式会社岡山工場内
		(72) 考案者	河本 由紀子
			岡山県勝田郡勝央町太平台1-2 小川香料株式会社岡山工場内
		(72) 考案者	長瀬 寿美子
			岡山県勝田郡勝央町太平台1-2 小川香料株式会社岡山工場内

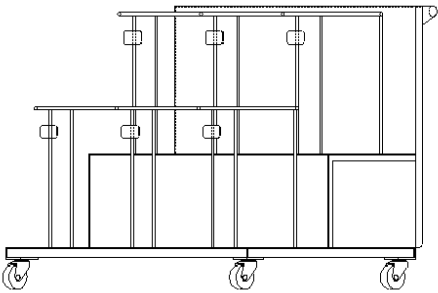
(54) 【考案の名称】 分別用ごみ収容棚

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡便にごみ収集袋の着脱が行われ、移動も簡単であり、また、収集物の内容が見えることから分別収集の間違いが無く、作業性の優れた分別用ごみ収容棚を提供する。

【解決手段】台車に、複数個のリングを取り付けたことを特徴とする、分別用ごみ収容棚。台車の荷台にリング状のごみ袋の収容架台を取り付け、該架台にごみ袋をセットし、収容したごみを処理場へ簡便に運搬することができる。簡単な構造で取り扱いに優れており、収集されるごみの種類に応じてごみ袋の設定が可能であり、汎用性に優れている。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

台車に、複数個のリングを取り付けたことを特徴とする、分別用ごみ収容棚。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、分別用ごみ収容棚に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

近年、環境保全、資源の再利用がますます重要性を帯びてきており、企業においても重要な課題となってきた。とくに製造業においては、工場で発生する廃棄物は種類もその量も多いため、排出量の削減や再利用など様々な努力がなされている。ごみの分別収集もその第一歩であるが、工場において廃棄物はいつ何時にも発生しうるため、簡便にかつ効率よく収集し、運搬することが重要である。

10

【0003】

簡単な構造で、かつ多種類のごみの分別が可能な分別用ごみ収容棚としては、たとえば、複数のごみ袋を保持可能に設置した分別用ごみ収納棚において、組立・分解可能な受台保持枠と、該受台保持枠に取り付けられた多数の抜止め部材と、これら多数の抜止め部材に係合するフック溝を有する収納枠体とから構成されたことを特徴とする分別用ごみ収納棚が提案されている。しかしながら、当該収容棚は格納時には分解してコンパクトにできるという利点は有しているものの、構造としてはやや複雑であり、より取り扱いの易しい収容棚、さらには最終分別置き場へたやすく運搬できるタイプが望まれていた。

20

【特許文献 1】特開 2007 - 70000 号公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

解決しようとする問題点は、作業に優れ、かつ、使い易い簡便な分別用ごみ収容棚が無いという点である。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

かかる目的を達成するための考案は、台車に、複数個のリングを取り付けたことを特徴とする、分別用ごみ収容棚である。

30

【考案の効果】**【0006】**

本考案を採用することにより、簡便にごみ収集袋の着脱が行われ、移動も簡単であり、また、収集物の内容が見えることから分別収集の間違いが無く、作業性の優れた分別用ごみ収容棚を提供することができる。

【考案を実施するための最良の形態】**【0007】**

以下、本考案の構成を図 1～5 に示す実施の形態に即して説明する。図 1 は、本考案の代表的な実施形態であり、斜視図で示している。台車の荷台の辺から垂直に伸びた支柱にリング状の金具が取り付けられている。このリングの淵にごみ収集袋の口を取り付けて使用し、ごみの収集が終われば台車をごみ処理場へさせ、ごみ袋だけを外して処理することができる。この形態は、比較的小さなごみ及び種類が多いときに特に有用である。

40

【0008】

図 2～4 は、本考案の代表的な形態を表す三面図である。図 2 は正面図であり、辺から垂直に伸びた支柱にリング状の金具が取り付けられており、必要に応じて支持架台を使用できる。この図では一列 3 セットのリング状金具が段違いに 2 列設置されている。このリング状金具及び支柱は着脱可能になっており、必要に応じて径の異なるリングを設置することにより、ごみ収容袋の大きさや設置個数を変更することができる。なお、この図のよ

50

うに支柱中程に收容されるごみの種別を記載することにより、より使用性が高めることができる。

【 0 0 0 9 】

図 3 は右側面図である。台車上に段差を設けることにより、ごみ收容物の視認性が高まり、分別の間違いを防ぐことができる。また、この段差の下には収納場所を設けることができ、ごみ收容袋や固定のためのテープ、交換部品などを収納可能である。図 4 は平面図であり、図 5 は本考案を実施しているときの右側面図である。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 1 0 】

簡便にごみ収集袋の着脱が行われ、移動も簡単であり、また、収集物の内容が見えることから分別収集の間違いが無く、作業性の優れた分別用ごみ收容棚を提供することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 1 】

【図 1】本考案の分別用ごみ收容棚の代表的な実施形態の斜視図である。

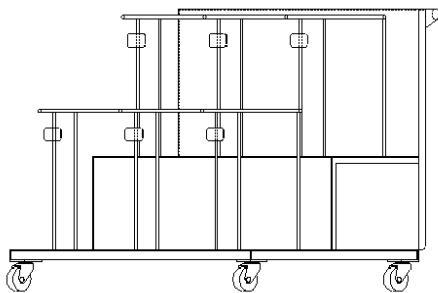
【図 2】本考案の分別用ごみ收容棚の代表的な実施形態の正面図である。

【図 3】本考案の分別用ごみ收容棚の代表的な実施形態の右側面図である。

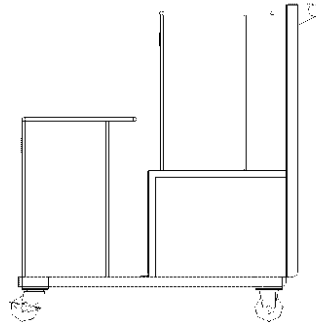
【図 4】本考案の分別用ごみ收容棚の代表的な実施形態の平面図である。

【図 5】本考案を実施している状態での右側面図である。

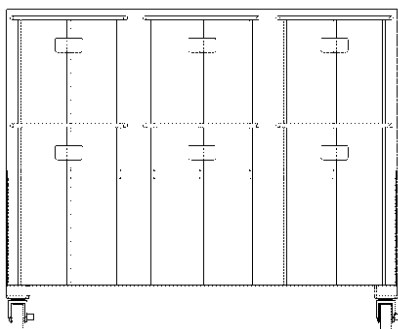
【図 1】



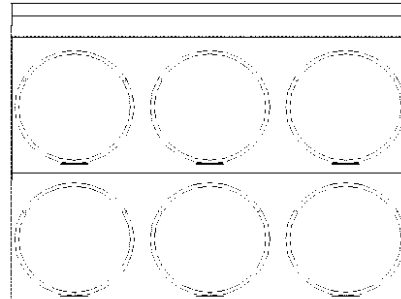
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【図 5】

